

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助演習Ⅲ		選択	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡邊 典子	講師控室	kyoumu	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; ソーシャルワーカーとして、地域で生じている個人や家族等の生活のしづらさの理解を深め、共通課題を発見し、問題解決に向けたチームアプローチが出来るようにする。</p> <p>&lt;概要&gt; 課題学習や同時双方向授業の方法にて、授業計画に沿いながら講義を実施し、教員と学生相互の応答で会話、プレゼンテーションの練習を行なう。課題学習を取り入れ、クイズ形式にて質疑応答を実施し、ソーシャルワークに用いられる重要な価値・知識・技術を事例に基づき理解し、言語化できるように、コミュニケーション能力を高める。また、グループワークができるように工夫しグループ発表ができるようにする。</p>				
学習上の助言	<p>この授業ではソーシャルワーカーになるための援助技術を習得する目的から、ソーシャルワーカーの論理要領と、ソーシャルワークの定義（ソーシャルワーカー連盟）を復習しておくことが望ましい。グループワークを主として話し合い、課題を考え、解決に導ける内容とするため、自己理解と他者理解が必要となることから、バイステックの7原則も理解も深めて欲しい。課題の提出を確認し、ひとり1人にコメントし助言とする。</p>				
教科書	事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク / 著：川村隆彦/中央法規出版				
参考書	指定参考書なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークそれぞれの支援の在り方を習得できる			社・精(1)(2)	
②	事例を通じて基礎基盤となる価値・知識・技術・原則を学ぶことができる			社・精(1)(2)	
③	支援の開始から終結の相談援助のプロセスを理解し、多職種連携の必要性を身につける			社・精(1)(2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (自己紹介・授業の進め方・評価に関する説明等) を課題にて実施する。セルフエスティームについて、テキストを熟読する。	課題送付・提出・フィードバック	課題①自分の価値について理解し設問に記入する。		4
2	目指すソーシャルワーカー像 (ソーシャルワーカーとソーシャルワーク・専門性とは) について、テキストを使い課題を通して学習する。	課題送付・提出・フィードバック	自分の社会福祉士像を伝える		4
3	虐待事例：個人・家族へのソーシャルワークについて (出会いと語り・利用者ニーズ・目標等) テキストを使い課題を通して学習する。	課題送付・提出・フィードバック	演習テーマに関連する課題に取り組む		4
4	家族支援：個人・家族へのソーシャルワーク (働きかけと振り返り・支援の終結) についてテキストを使い課題を通して学習する。	課題送付・提出・フィードバック	演習テーマに関連する課題に取り組む		4
5	ワークショップ 1 前事例について、テキストを使い課題を通して、支援の方向性を考え事例をまとめる。	課題送付・提出・フィードバック	演習テーマに関連する課題に取り組む 課題事例のアセスメント票の模範シートを配布		4
6	グループへのソーシャルワーク (準備期・開始期) についてテキストを使い課題を通して学習する。	課題送付・提出・フィードバック	演習テーマに関連する課題に取り組む		4
7	グループへのソーシャルワーク (作業期・終結期) についてテキストを使い課題を通して学習する。	課題送付・提出・フィードバック	演習テーマに関連する課題に取り組む		4
8	ワークショップ 2 前事例についてグループで支援の方向性を検討し発表する。	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む		4
9	地域社会へのソーシャルワーク (地域ニーズの把握・地域アセスメント) についてテキストを使い課題を通して学習する。	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む		4

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

10	地域社会へのソーシャルワーク（活動計画と実施・評価）についてテキストを使い課題を通して学習する。考える。	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む	4
11	ワークショップ3 ソーシャルアクションについて考える。	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む	4
12	ソーシャルワーク関連領域への扉（1）エンパワメントについてテキストを使い課題を通して学習する。	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む	4
13	ソーシャルワーク関連領域への扉（2）ケアマネジメントから地域ケアについてテキストを使い課題を通して学習する。	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む	4
14	ソーシャルワーク関連領域への扉（2）多職種連携の必要性についてテキストを使い課題を通して学習する。理解する（児童虐待・DVの事例）	同時双方向型授業	演習テーマに関連する課題に取り組む	4
15	ソーシャルワークの価値と倫理（自己覚知・他者理解）について講義を実施。事前課題にてフィードバックで総復習を行なう。	同時双方向型授業	シラバスをもとに、自己評価、授業評価をする。	4
試				

達成度評価

総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	30	10	10	50	100
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	3	5	13
	思考・推論・創造する力	0	5	0	3	5	13
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	15	15
	発表・表現伝達する力	0	5	5	0	5	15
	コミュニケーション力	0	5	0	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	2	10	17
	問題を発見・解決する力	0	5	5	2	5	17

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
	①	②		
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	レ	授業期間中に、「児童虐待の事例の支援計画」と「地域活動企画書」についての2つのレポートを提出してもらい、授業で学んだ内容を深めることができているかという観点から評価する。（計30点）	採点をして学生に配布する
	②	レ		
	③	レ		
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	レ	グループワークの最後に成果発表を実施するが、自己理解と他者理解ができているか評価シートを作成する（計30点）	成果発表後に、どういう理解をしたのか講師から質問をする。
	②	レ		
	③	レ		
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①	レ	授業期間中に演習テーマに関連する課題への取り組みと提出を求め、授業で学んだ内容を深めることができているかという観点から評価する。ワークショップや授業中に終結できなかった課題を復習できているかという観点からも評価する。（計10点）	毎回、課題提出を確認し、ひとり1人に対して、教員がコメントし、返却する
	②	レ		
	③	レ		
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	レ	課題の取り組みや記述等への意欲などの参加状況（30点）他のグループ発表での気づきや質問、評価（10点）、授業終了時に記載するクイズをリアクションペーパーに代替えし評価する。（10点）	グループワークは授業ごとにメンバーを変える。授業の初めに。前回のリアクションペーパーを使い振り返りを実施する
	②	レ		
	③	レ		
	④			
	⑤			
	⑥			

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

備 考

Teams を使った同時双方向型授業を行います。課題のダウンロード、パワーポイントを使った課題の提示を行いますので、授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励します。

**教員の実務経験：**社会福祉士を平成 11 年、介護福祉士を平成 12 年、精神保健福祉士を平成 18 年に取得。令和 1 年主任相談支援専門員の資格取得。現場のソーシャルワーカーとしての臨床を継続しつつ、勤講師歴は 14 年となる。

**実践的授業の内容：**グループワークにおいて事例を用いて、社会福祉士としての価値、知識、技術、原則を身に着ける段階で、現場からの事例も参考にしながら、学生としての気づきと、専門職としての専門性を対比して指導を行った。本年度も教員が持つ事例を示し、その事例から読み取れる見立てと見極め等の臨床所見へのアセスメントを学生に示唆しながら、教科書の事例と絡めて、社会福祉士の基盤となる相談援助のプロセスを学べるようにする。事例は個人を特定できないように配慮する。

\*今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。